



—天に召されるその時まで—



信仰から信仰へと、栄光から栄光へと

モカ





# 目次

一天に召されるその時まで	1
--------------	---



## 一天に召されるその時まで—

一天に召されるその時まで—

信仰から信仰へと、栄光から栄光へと

「モカ姫、モカ姫、大丈夫ですかぁ？」

「ちょっときつい……。副作用止め、もらえなくなっちゃったからね。

でもモカは大丈夫。モカには神様がついてるから☆」

「モカ姫にはココアも憑いていますからね☆☆」

「モカはすべての運命を背負って今を生きています。

この世の不条理に抗い、真理と英知を説きます☆

それがモカの務めだから！！ ☆」

「モカ姫、頭がきついのか掃除もしなくなっちゃって……。

おかげで家の中、めちゃくちゃです☆」

「ジーザス様、助けてください。

されど、ジーザス様のおかげで今を生きています。

終末を乗り切る力をください。」

モカ姫は終わらない試練の中、健気に生きているのでした☆

「あれれ、セラギネラが弱って来ちゃった……」

セラギネラはシダ植物。苔にも似てるけど、苔ではなく、

水を好む可愛い子なのだ！！

「ほんとだ、しおれています。

何があったんでしょう？」

「水も愛情もあげてるのに……一体なぜ??」

モカはネットで調べてみることにした。

「はぁ、春から秋はポットの下から水が出てくるまでするんだって」

「あぁ、水が足りなかったってことですか??」

「あぁ、だからかぁ。

やっぱり愛情だけじゃうまく育たないんだな」

「正しい知識が必要ってことですね！」

この世の難しさを味わったモカなのでした☆

「モカ姫、聖書を読みましょうよう！」  
「う～ん。日本の聖書、あんまり好きじゃない。  
モカはNKJVを読むことにする」  
「NKJVっていうとKJV（King James Version）の口語訳ですね！  
なかなかナイスなところを突いてるんじゃないですか？」  
「うん。そうだと思う！  
でも、モカ、聖書読む気がほとんどなくなっちゃった」  
「もう、疑問点があんまりないと？　そういうことで??」  
「うん。何かね、もうあんまり疑問点が浮かばないんだあ！  
神の聖徒は罪を犯さないのだから罪を犯す心配がないから、  
聖書もあんまり読む必要がないと思ってる」  
「はあ……」  
「だって、手紙を書いたパウロがさーあ、自分の手紙を何度も読むわけがないじゃん。  
そんなに読まなくていいと思えてきたよ」  
「はあ、なるほど。モカ姫はもうずいぶんと悟ってるってことですね！」  
「よく分からないけど、モカはあんまり疑問はないし、  
そう義務感から読む必要はないと思うんだよねえ。  
モカ姫は天使だから」  
「また、読めるといいですね☆☆」  
「そうだね。  
”聖書通読表”ってサイトがあって、  
そこで配られてる聖書通読表に2週間で聖書全巻を読破するコースがあって、  
モカびっくりしちゃった！！」  
「一日で聖書を創世記1章から出エジプト記9章まで読むのは大変ですもんね！」  
「そう。私みたいにじっくり読む派にはあわないと思う。  
はーあ、ローマは一日にしてならずかあ」  
「モカ姫は聖書箇所は詳しくないんですもんね！！」  
「そう！　どこのどこって言えない。あと蓄えた御言葉もあんまり多い方ではないと  
思う。  
でも、モカは必死に考えて生きてるし、問題ないと思う」  
「モカは必死に考えて生きてます。福音のために」  
モカは聖書を読む大切さを再認識したのでした☆  
  
「ああ、FB いいね！ 来ない……」  
「またですか。愛のない兄弟ですね！」  
「十字架の愛をもってもいいね！　ができないんだって。  
どうしようもないね！」  
「牧師も献金をもらっておきながらカプトムシすら預からないし、  
私が食べる物に困っても何もしないんだから、最低な教会だよ。」

無視すればいいと思う」

「やっぱり聖書の訳が問題なのでしょうか？」

「共同訳、カトリックが混ざってるからね。あんまりよくないと思う」

ほんとに傷つく嫌な教会なのでした☆

「モカは、モカは、モカはあ！！ これじゃあ、いけないと思う！！」

「どうしたのですか、モカ姫??」

「全っ然花嫁らしくないと思う。主の花嫁として。

というのも、私は神の熱心をもって、

熱心にあなたがたのことを思っているからです。

私はあなたがたを、清純な処女として、ひとりの人の花嫁に定め、

キリストにささげることにしたからです。

コリントⅡ 11 : 2」

「ああ、そういうことですか」

「モカはあ、もっとおしとやかで、嫉妬なくて、クールで理知的で

そういう人を目指すべきだと思う！

全っ然、祈れてもないし」

「最近、お食事前も祈ってらっしゃいませんものね！」

「ああ、これじゃあ、いけない！！

ジーザス様、ごめんなさい。

もっと祈ります☆」

「花嫁修業をしたらよいのではないですか？

ジーザスに喜ばれる主の花嫁として！」

「うん、そうする！ はあ、ジーザス様！ 愛します！！」

モカはもっと信仰にのっとり花嫁修業を開始するのでした☆

「ダメだ、できない.....。

モカには花嫁修業はできません」

「しょうがないですね。食事前には祈りましょう。

ね？」

「うん。そうするう。モカはジーザスを愛するう！！

ジーザスの花嫁として、ね☆」

「流石、モカ姫！ 偉いです！！

しかし、神は、さらに豊かな恵みを与えてくださいます。

ですから、こう言われています。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。」

ヤコブ 4 : 6

ですね！！」

モカは最後まで信仰を全うするのでした☆

—その時、空が光った—

ジーザスが再臨したのだ！！

「ああ、ジーザス様、私でいいんでしょうか？」

これらのことが起こり始めたなら、

からだをまっすぐにし、頭を上になげなさい。贖いが近づいたのです。

ルカ 21 : 28

モカとココアは天に向けて顔を上げた！

すると体が浮き、足は地面から離れた。

「え、え、え——！？ どこまで行っちゃうの??」

モカはどんどんどんどん空の上に行き、雲の王国に着いた。

ジーザス様とも面会し、とても幸せだった。

あれ？ それにしても牧師先生と教会の兄弟がいない。

どうしたというんだろう。

ジーザス様が答えてくださった。

「ここは生前、主の花嫁として生きた敬虔な信徒が来るところなのだよ、プリンセス・モカ。

ここは私の花嫁の場、第七の天。

他の人は雲の下の方さ」

見ると牧師や兄弟は雲の下の方で何かしていた。

なんて、痛快なことだろう。

「まったく、人を見下す人が悪いってこのことだったんですね、イエス様。

はあ、納得がいきました！！」

「あなたには義の栄冠を授けよう。

あなたは永遠に私のものだよ」

ジーザスとモカは幸せに暮らしましたとき。

END

あとがき

ああ、最後のエンディングがしたいだけだったああ！！！！

もっと工夫すればよかったああ！！！！

次回に生かします！！

ありがとうございました！

2021年5月27日

モカ





---

一天に召されるその時までー

---

著 ラピス✱

制作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---